

自分が知らない世界を知ることができた平和係

日本女子大学附属中学校・高等学校 西 栄美子



西 栄美子さん

西さんは高3の夏休みに小笠原諸島の父島に行きました。シロカヤックで海に出ると、抜けるような青い海に100頭を超えるイルカの泳ぎが眼に入る。それは美しい景色に描かれる平和そのもの。でもタイムマシンに乗って60年前以上に戻ると、同じ海では戦艦が波を切っていたと想像したそうです。同じ風景の中に今は平和が、過去には戦争が。

戦争を知らずに育った西さんですが、「自分の周りが平和ならそれでいい」という意識では絶対にいけない」と考えています。

アフガニスタンから来校した先生と生徒との交流会。



小笠原・父島で戦争の跡地を見て、戦争体験者の方々にお話をうかがった。



アフガニスタンから来校した先生、生徒との交流も、生徒会平和係の活動の一環でしたが、日本で伝えられているアフガニスタンの情報と、留学生が語る自国イメージには大きなギャップがあることを知りました。

平和係の活動をして、「いろいろなことに驚き、自分を含め日本の若者の視野は本当に狭い」と

実感しました。今まで自分とは区切られた世界と思っていた時間空間を知り、自分の世界が広がり、人生に大きな影響を与えてもらいました。」

西さんは物質生物科学科へ進学しましたが、そこでもまた新しい世界、新しい自分を発見し、さらなる視野を広げていくことでしょう。

日本女子大学附属中学校・高等学校 (神奈川県川崎市)



Viva! Communications

夏休みに本学附属小学校から大学生までの十八人で訪れた小笠原。そして一月のアフガニスタンのアフガニスタン女子高生の二週間にあたる招聘。これらの体験は私にとり、大きな転機となりました。小笠原では手付かずの広大な自然の中に大砲や砲台を目にしました。また、穏やかなに流れる時間の中、静かな面持ちで「戦争とイウのけ殺し合いと壊し合い。多かれ少なかれね」と語られた戦争体験者の方のお話は、今も心に残っています。私たちの中であつた、戦争への概念に真に向かうゆくりと、しかし合っただけでなく、身近なもの同士のおつちです。戦争が必ずしも遠いものなわけではなけれど、実感させられました。アフガニスタンの留学生は招聘では毎日驚きの連続で、こんなにも自分の視野は狭いのかと

SCHOOL

Viva! Communications

かとはただ呆気に取られるばかりでした。国が違えば宗教も違う彼女達は、食文化から勉強への対する姿勢まで私達と全く異なっていました。けれども同時に祖国を愛し、生き生きと笑う、同じ少女でもありました。いつもテレビの向こうに映される戦争と悲劇だけが、つかつかアフガニスタンの全てだと思つていた私には衝撃でした。彼女達は朗らかな表情で祖国の豊かさや素晴らしさを語ってくれました。人は人と話すことでその人が体験してきたことを間接的に体験することかできます。そのことを私に教えてくれたのが小笠原のサマースクールとアフガニスタン留学生招聘でした。自分とかけ離れた時や場所でも起きた出来事でも、人の口から経験談とともに語られることでより鮮明さを増します。今まで関心のない世界や平和に、高校という場を活かして関わってみようと思つた生徒会の平和係。沢山の意見交換の場と共に視野を広げ、自分を変えるとき、かけをくれた場となりました。

SCHOOL